令和５年度第４回安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想策定委員会　会議概要

1　会議名　令和５年度 第４回安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想策定委員会
2　日　時　令和５年 12 月５日　午前 10 時 30 分から午前 12 時 00 分まで
3　場　所　安曇野市役所４階 大会議室
4　出席者　安曇野市　政策部長　渡辺　守、商工観光スポーツ部長　鳥羽　登
千曲川河川事務所　所長　中根　達人
安曇野建設事務所　所長　小林　宏明
松本大学総合経営学部教授　山根　宏文
信州大学キャリア教育・サポートセンター　専任講師　勝亦　達夫
2000 年シドニー五輪カヌースラローム日本代表　安藤　太郎
安曇野市商工会　青年部部長　岩垂　巧磨
安曇野市観光協会　企画営業課長　佐藤　亜紀子
合同会社うずまき（龍門渕てらす）　横内　健人
アルプス女性企業家会議会長　石田　恵美
案内人倶楽部・安曇野市地域通訳案内士　長島　美樹
株式会社 MIGRANT（アウトドア愛好家・民泊経営・一級建築士）小穴　真弓
5　事務局　政策経営課長　黒岩　一也、企画担当係長　白鳥　和子、企画担当主査　内川　聡介
6　公開・非公開の別　公開
7　会議録作成年月日　令和５年 12 月６日

協議事項等

◎会議次第
1　開会
3　検討会議
（１）安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想（案）について（資料 1）
（２）今後のスケジュール（案）について（資料２）
4　閉会

3　検討会議
（１）安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想（案）について（資料 1）
【事務局説明】
・アウトドア拠点のコンセプト「人、自然、歴史が“巡る”水郷のにぎわいの合流拠点」のもと、拠点を通じて明科地域のモノ、コト、ヒトがつながり、地域内外の人々がまちを巡り、新たな出会いや活動が生まれ巡る場となること、そして、市民の明科地域に対する誇りと愛着を一層深める場となることを目指す。
・アウトドア拠点整備の基本方針は「１　「水郷明科のにぎわいが巡る」かわまちづくり」「２「自然が巡る」体験づくり」「３　「歴史・文化が巡る」人づくり」とする。

・拠点整備を行う龍門渕公園・あやめ公園からまちなか、明科駅までの一帯を「にぎわい合流ゾーン」とする。旧国鉄線を中心とした「歴史・文化散策ゾーン」、長峰山を中心とした「自然満喫ゾーン」を設定し、各ゾーンとの連携、回遊を促し、明科地域全体ににぎわいが波及するよう取組む。
・「にぎわい合流ゾーン」には、「情報発信機能」「まちなかにぎわい機能」「人材育成機能」「地域の交流を生み出す機能」、「にぎわう、学ぶ河川機能」を備える。
・龍門渕公園・あやめ公園は「にぎわい合流ゾーン」の中心地として、センターハウスや憩いエリアの整備や、公園をより活用しやすくなるよう都市公園の利用条件に関する緩和等を進めていく。
・前川・犀川については、これまで川や水から縁遠かった子どもや親世代が水辺の楽しさと安全を学ぶ機会となり、明科地域の魅力を見つけていけるような整備、運営を目指す。
・アウトドア拠点の整備は令和 8 年度を目標に進めることとし、河川整備については国や県の河川管理者と協議、調整しながら進めていく。同時に、かわ、まち、山、空が一体的に連携して盛り上がっていくためにはどうしたらいいのか、具体的な事項を話し合う「かわまち委員会」を立ち上げ、体験会やワークショップなどを行い、市民の機運を高めていく。
・宿泊施設をセンターハウスに入れる場合、必要な面積や都市公園の条件等を考慮する必要がある。センターハウスやまちなかへの誘導等、事業規模も踏まえながら検討していく。

【山根委員】
・これから先の観光を考えると、環境に良いこと、体験させることは間違いないので、今回されることは良いことだと思う。あとは、観光客は外国人が多くなる。消費額を考えると外国人にどう対応するのかを考えないといけない。
・また、安曇野に来る方は安曇野を「第２のふるさと」と考えるリピーターも多い。若い人は減り、高齢者が多くなるので、高齢者がアウトドアをしても良いし、安曇野の住民みたいに安曇野の暮らしを楽しみたいということが大切。
・観光施設を作ろうとすると失敗するので、大事なことは地域の人に愛されること。あの川で何が楽しめるのと言う地域の方を楽しませて、それから観光客が来ていただく形がうまくいくと思う。

【安藤委員】
・全体の構想としては良いが、推進主体の整備が大切になってくると思う。山や廃線敷の方の顔が見えてくるとよいのではないかと思う。エリアの専門家がいないと連携が難しく、巡らないと思う。
・20 年後、30 年後を見据えて、地元の子どもたちがどういう施設、コトがあったら良いか意見を聞いた方が良いと思う。
・外国人の目線も必須で、外国人対応ができないとどこもやっていけない。たくさん呼び込むということではなく、外国人対応ができるような体制を整えたり、発信することが大切。
・宿泊施設については、拠点の近くになければ合宿なども誘致できない、人を呼べない。センターハウスに限らず、周辺に確保できることが必要。
・前川のカヌーコースを整備することで、水質が綺麗になるようなことが考えられたら良いのではないか。

【岩垂委員】
・12 月～3 月が観光客が減ってしまうが、その閑散期対策などが必要。
・この拠点ができたことで明科にどう持続的な発展ができていくのかが見えにくい。例えばセンターハウスに来て楽しいと感じた人がいる、ここに住みたいという人たちのための情報が集まっている等。

【石田委員】
・明科にはおしゃれなカフェがないので、市民や周辺からも人が集まってにぎわいができるのではないか。
・空き家活用だけではなく、ホテルのような宿泊施設があれば、家に人を泊められないときに泊めることができて良いと思う。
・子どもがいるが、カヌーの教室があったら嬉しいと言っていた。地域の子どもも巻き込むと、地域への愛着、水への親しみにつながると思うのでたくさんやっていただければと思う。

【小穴委員】
・センターハウスがじゃぶじゃぶ池の横にできるのは良さそう。自分も川下りするので、ここに車止めて、センターハウスにすぐ行けて、使いやすいと思った。じゃぶじゃぶ池で子どもが SUP 等遊べるイメージなのはとても良いと思った。
・このセンターハウスから犀川を見渡せる等景色も楽しめるような感じにできればと良いと思う。
・にぎわいについて、カフェだけではなく、マルシェのようなイベントも考えてもらえるとよいのではないかと思う。それによって設計も変わってくると思う。

【長島委員】
・冬の間の利用の仕方が気になっている。山の方では活用の方法があると思うので、冬なりの楽しみ方ができればと思う。
・実際に巡る手段がなくて、交通をどうするのかは真剣に考えなければいけない。
・地元の子どもがどう参加するのか、学校とどう連携するのか、具体的に書かれるとよいのではないか。
・安曇野市では地域通訳案内士（AT 対応）を育成しているので、インバウンド対応など連携できればと思う。10 名以上活動している。ガイド育成について、今の想定は川のガイドがメインだと思うが、山のガイドも育成も今後考えていただければと思う。

【横内委員】
・コンセプトの“巡る”はすごく良いと改めて思った。だからこそ、どうやって巡らせるのか、動線が重要。案内板だけでは薄い。準拠点を設けてそれを巡ってもらう仕掛け等が書き込まれても良いと思う。
・川以外のアクティビティの部分のイメージ、記述をもう少し意識してほしい。
・まちなかに空き家はあるが、使える空き家は少ない。計画的に地権者の方との関係性作り、交渉含めてこの事業の中で組んで行かないと動かないと思う。

【佐藤委員】
・冬、足回り、人の問題が気になった。前回もお伝えした通り、安曇野自体が冬に行く場所がないので、明科で何かしようと思えるようなコンテンツが欲しい。
・明科はコンパクトな地域なので、そこをつなぐ何かを考えていただけたらと思う。
・受入側の人がいない。移住を考えている人たちは仕事がないことを心配されるので、若い子育て世代の働く場につながっていけば良いと思う。

【小林委員】
・人を呼び込むためにどうすれば良いかは構想に整理されているのでよいと思うが、地域の中でどう身近に感じてもらって盛り上げていくか。子どもの体験は大事だと思うので、原体験となって、大人になった時に自分たちの地域について広めていくと、根付くと思う。例えば子どもがプロ等の大人の姿を見ることで、人材が育ち、まちとしても世間に広まっていくと思うので、そういう盛り上げ方も考えてもらいたい。
・駅前の空き地は、今回の構想に含まれているのか。何かにぎわいをうむことに活用してほしい。
⇒（事務局）民間の土地になるので、現時点で市が何かすることは想定していない。
・動線について、矢印が外に向いているのはなぜか。
⇒（事務局）相互に人が動いているイメージ。わかりやすく修正する。

【中根委員】
・回遊性について、各ゾーンを巡らせるにあたっての課題や対応方針など、もう少し具体的に書いてもよいのではないか。
・人材育成について、「ガイド、選手等のプロ人材」と書かれている。もう少し、学校との連携や地域の子どもたちに触れて良いのではないか。川の環境や防災について学べる等記載すると良い。
・推進体制については、これから具体的にしていくと思うが。もう少し具体的にした方がよいのではないか。表現もわかりやすくした方がいい。

【勝亦委員】
・基本構想としては、現段階ではまとまっており、良いと思っている。構想ができてくると、最初の目的や目標が薄れることが多い。施設を作っていく上で、なんのための施設、機能だったか。例えば、地域でアウトドアを楽しめるようになると地域がどうなるのか、どんな外国人・地域の方等にきてもらってどう使ってもらいたいのか、等。
・にぎわいという言葉も便利だが、ここではどのように定義するか。
・ラフティング等で川を使い続けるために、川や生態系を維持するための仕組みなどがはっきり見えると特徴としてよいと思う。
・人が集まりたくなる仕組みを考えてもらいたい。地域の人がどう関われるか。
・稼ぐ仕組みとして人がたくさんきて儲からないということもあると思う。企業が関わりたくなる余地、無関心が関心に変わるような余地ができればと思う。
・国交省で小さな拠点を推奨していた動きがあるので、アウトドア拠点も地域の小さな拠点として、

物資、交通、買い物等、皆さんが考えているものにうまくつながると良い。そうすると地域づくりの予算も複合的に使えて循環していくと思う。

【鳥羽商工観光スポーツ部長】
・拠点の基本構想なので良いと思う。
・回遊性をもう少し強めに打ち出してもらえると、今後、長峰山林道整備、廃線敷整備などについても良い影響があると思う。
・宿泊はセンターハウスに限らず、民間の力をお借りしてまちなかエリアへ誘導できればと思う。
・センターハウスの候補地が公園の南側だと薪能との関係があるので、文化の継承についても書いてもらえればと思う。

（２）今後のスケジュール（案）について（資料２）
【事務局】
・本日いただいたご意見を基本構想（案）に落とし込み、月末よりパブリックコメントを行う予定。
・パブリックコメントは１月下旬締切予定。広報での周知や住民説明会（1 月 11 日を予定）を行なっていく。
・パブリックコメントでいただいたご意見を落とし込み、2月から3月にかけて基本構想を策定する。
・次回の策定委員会は２月６日（火）10:00 からを予定。